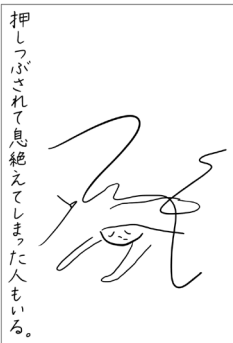


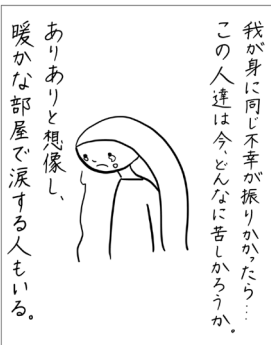
嘆き悲しみ祈るだけ。結局何もしなかった。

そんな大人からは、もう卒業しないか。

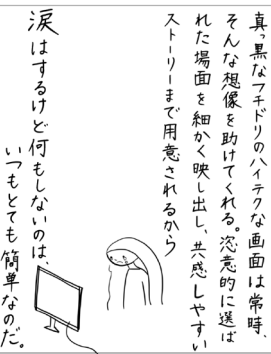
今もカレキの下で苦しむ人がいて



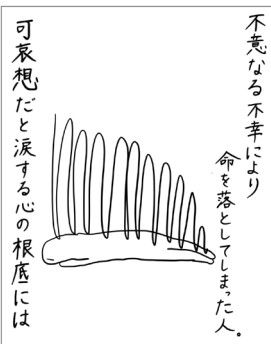
押しつぶされて息絶えてしまった人もいる。



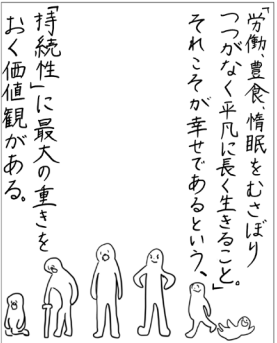
我が身に同じ不幸が振りかかったら...
この人達は今、どんなに苦しいだろうか。
ありありと想像し、
暖かな部屋で涙する人もいる。



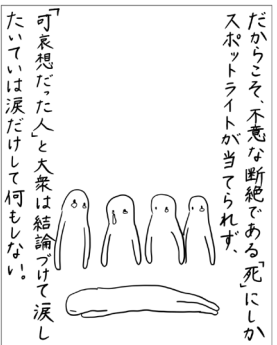
真黒なフンドリのハイテクな画面は常時、
そんな想像を助けてくれる。恣意的に選ば
れた場面を細かく映し出し、共感しやすい
ストーリーまで用意されるから
涙はするけど何もしないのは、
いともとても簡単なのだ。



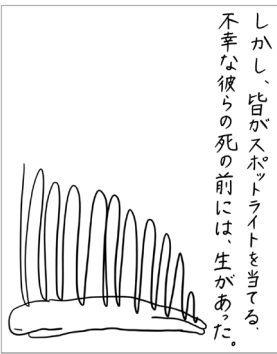
不意なる不幸により
命を落としてしまった人。
可哀想だと涙する心の根底には



「労働・食糧・情眼をむさぼり
つがなく平凡に長く生きること。
それこそが幸せであるという、
『持続性』に最大の重きを
おく価値観がある。



だからこそ、不意な断絶である「死」にしか
スポットライトが当てられず、
「可哀想だ。人と大衆は結論づけて涙し
たい。涙は涙だけれど何も見えない。」



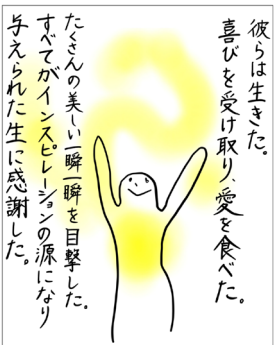
しかし、皆がスポットライトを当てる。
不幸な彼らの死の前には、生があった。



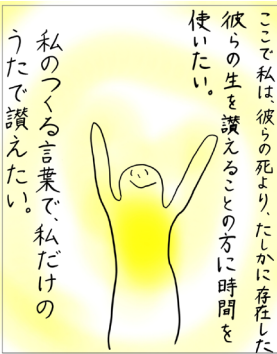
孫の笑顔。
誰かの優しさに触れるとき。
「おはよう」と
言いあうとき。
夕日に心をつかまれ
立ち尽くしてしまうとき。



「つがなく平凡に長く生きる、生の特続性が
最重要視される価値観の渦の中、不意な死
による不幸のみに焦点が当てられ、
彼らの生、素晴らした一瞬を
見ようとする者はいない。」



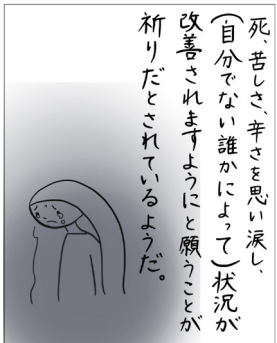
彼らは生きた。
喜びを受け取り、愛を食べた。
たくさんの美しい一瞬一瞬を目撃した。
すべてがインスピレーションの源になり
与えられた生に感謝した。



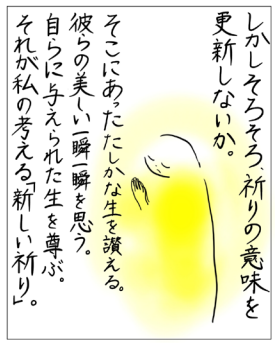
ここで私は、彼らの死より、たしかに存在した
彼らの生を讃えることの方に時間を
使いたい。
私のつくる言葉で、私だけの
うたで讃えたい。



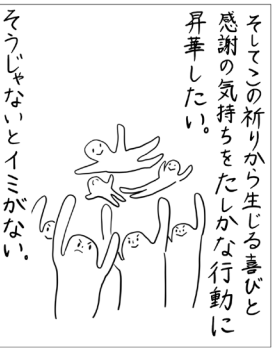
そしてそこから、自分に今与えられている
生を讃えたい。
「明日死んでもいいくらいに、
一瞬一瞬の美しさを讃えて生きたい。」



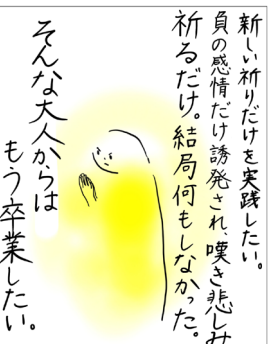
死、苦しき、辛さを思い涙し、
(自分でない誰かによって)状況が
改善されますようにと願うことが
祈りだとされているようだ。



しかしそろそろ、祈りの意味を
更新しないか。
そこにあたたかかな生を讃える。
彼らの美しい一瞬一瞬を思ふ。
自らに与えられた生を尊ぶ。
それが私の考える新しい祈り。



そしてこの祈りから生じる喜びと
感謝の気持ちをたしかに行動に
昇華したい。
そうじゃないとイミがない。



新しい祈りだけを実践したい。
負の感情だけ誘発され嘆き悲しみ
祈るだけ。結局何もしなかった。
そんな大人からは
もう卒業したい。

東日本大震災、熊本地震、能登半島地震。災

るか考えています。

ことにしました。

害が起き、現地の痛ましい様子が公開される
と、とても悲しく、つらくなってしまいました。

ハイエースを運転し、現地にお水やカセット
コンロ、おむつなどを届けることができたらど
んなにいいでしょうか。実際に瓦礫を除去する
作業ができればどんなにいいでしょうか。

「各人が前を向いて生きること、そしてそのよ
うに生きること、生じた余力を、困った人に差
し向けることができるような、よい循環をつく
ること。」わたしがこのフリーペーパーを発行
した理由はこれです。

そして、この寒さの中、瓦礫に埋まっている
人もいるのに、あたたかい部屋であたたかい飲
み物を、安心安全の環境の中飲んでいる自分に
ほんのりと罪悪感を抱いてしまったり、なにか
できることはないものかと思索して、思索のま
まで終わってしまったりします。

しかし、わたしには運転免許も体力もありま
せん。そこで私は、自分がいつも中学生の娘に
言い聞かせていることを思い出します。
その台詞は「女は腕つぶしの力で戦わない。
女は頭で勝負する。戦略は腕力に勝つ。」と言
うものです。男社会で生きてきた女の無力感か
らきているのかもしれないこの言葉を役にた
てるときです。

悲しみでもなく嘆きでもない。まさに今苦し
む人に対する安易な同調でもない。ネガティブ
な気持ちもたらす結果より、喜び、感謝、生
の尊さへの気づき、それらのポジティブな気持
ちが生み出すものの、とてつもない力を、私は
信じています。

私には正直、自分に何ができるか、わかりま
せん。いつもこういうことが起きると困ってし
まうのです。いろいろと考え「あれもこれもな
んだかパツとしないなあ、なにかアイデアは出
ないものか」と考え、結局は支援金を少ししか
り送る、こういうところにとどまってしまうこ
とが常でした。

私は、自分の漫画により、今回の能登半島地
震の被災者の方々に支援することを思いつき
ました。
そしてさらに、ブログ「あびママびより」の

吹けば飛ばうないち個人にながでできる
か、まだまだ考えていきたいと思えます。(当
漫画は、ブログ「あびママびより」の二〇二四
年一月四日の記事から転載したものです。)

そしてそのあとも「お金さえ送ればいいのか」
か」などと考えてしまい、なんだか歯がゆいの
です。今も現在進行形で、いろいろと何ができ

二〇二四年一月の利益はすべて、能登半島地震
の被災者の方々への支援金とさせていただきます